



# 胆振総合振興局長 × 町内の若手リーダー 地域の未来を語らう会

12月15日、洞爺湖温泉のホテルで、胆振総合振興局長との「地域の未来を語らう会」が開かれました。町内から6団体12人が出席し、本間局長と洞爺湖町の現在の課題と将来のまちづくりに向けて話し合いが行われました。その要旨を紹介します。(文責 企画防災課広報統計グループ)

## 出席者

- 胆振総合振興局  
本間研一局長  
地域創生部 清水章弘部長 (進行)
- 洞爺湖町 真屋敏春町長
- 洞爺湖町商工会  
阿部博之理事  
館岡恵一理事  
青年部 広瀬早喜部長
- いぶり噴火湾漁業協同組合虻田地区青年部  
福島正和部長  
菊地章仁会計担当
- とうや湖農業協同組合  
営農販売部青果指導販売第1課 齋藤貴裕課長  
総務部管理経理課 永井健司課長
- 一般社団法人洞爺湖温泉観光協会  
高臣陽太理事  
野呂圭一事務局長
- NPO 法人洞爺まちづくり観光協会  
後藤 修事務局長  
納谷豪一理事
- NPO 法人洞爺にぎわいネットワーク  
永井信久副理事長

## 局長

洞爺湖町は、観光地としても全国的に有名で、最近では特に海外からたくさんの方が訪れ、風光明媚で、おいしい農産物や海産物にも恵まれ、また、世界ジオパークにも認定されている大変素晴らしい地域です。胆振地域は1次、2次、3次各産業がパランスの取れた北海道唯一の地域で、振興局では、これを広域的に連携させた「6次観光」を推進しています。

今日は地域の将来と、それぞれ皆さんが取り組まれていることなど、課題を含めてじっくりと話をしながら進めていきたいと思えます。

阿部 商工会青年部として10

年ほど前から、地元の子どもや近所同士が語り合うお祭りが少なくなってきたことや、昔ながらのお祭りを復活させたい思いから、「にぎわいまつり」を開催しています。

地方でPR活動やイベントに参加すると、洞爺湖町は思ったよりも認知度が高く、お客さんの数は伸びてきています。しかし、街並みは年々寂しくなり、シャッター街も多くなり、この町の将来のためにこの現状をどうしたらよいか、今日お集まりの方たちからお聞かせいただければと考えています。

館岡 私は地元の小学校のPTA会長もしており、自分の

子どもだけではなく、できれば周りの子どもと一緒に見てあげられたらと、青年部の活動と子どもたちを結び付ける活動しています。洞爺湖町から一度離れて帰ってきた時に、地元の人知らない名所が意外と多くあることに気付きました。洞爺地区にフリークライミングができる本格的な岩場があることは、地元の人にはあまり知られていません。地元の人知らないものを地元で教えようといった取り組みを始めています。

この町を出て行っても、いつかこの町に戻って何かをするような子どもたちが一人でも多く出てきてもらえればと、子どもたちに向けた取り組みをしています。

広瀬 青年部では3年前から地域の子どもたちに地元にある仕事を伝え、将来、町を離れていつの日か戻ってきたときに役立つてもらえるように職業体験事業を行っています。

消防団の活動の中では、年々増加する独居老人のお宅にお伺いし、この時期はストーブが

危ないことなど、活動を通じて  
気付くことがあります。青年部  
活動と一緒に絡め、独居の人の  
ために取り組んでいけるので  
はないかと思っています。

フリークライミングもこれ  
までにないことを青年部で提  
言しています。都会ではあり  
ふれたものでも、田舎ではあ  
まり知られてなかったり、胆  
振でもあまり施設がないた  
め、早いうちに取り組みたい  
と動いているところです。

**局長** 子どもたちのため、地  
域のために、新たにお祭りを  
つくり出そうと商工会青年部  
が中心となっていることは、  
非常にいいことだと思いま  
した。シャッター街は、観光客  
が増え、特にインバウンドの  
外国人の方が増えていますの  
で、できるだけ温泉街を周遊  
してもらおうといった取り組  
みもつとできればと思います。

地元の方が意外と地元の人  
とを知らないということ、  
町の中でツアーしてみても意  
外と面白いと思います。

職業体験事業は、非常にい  
いですね。昔は親の仕事場が

近かったり、色々な職業の人  
が近くにいたが、今は親の職  
場が離れ、どういう仕事をし  
ているのか分からなくなっ  
ています。

皆さんマルチで活躍されて  
いるというのを改めて感じま  
した。これからも頑張ってい  
ただきたいです。

**福島** 虻田地区漁協青年部と  
言っても今は7人しかいませ  
ん。僕がちょうど漁師を始め  
る前後ぐらいに、ホタテの値  
段が一番安くて、その時期に  
漁師を始めました。こんな状  
況下で親が漁師にさせなかつ  
たというのが、今、後継ぎが  
いなくなった現状につながっ  
ています。

現在食育の事業に力を入れ  
ています。5、6年前から虻  
田小学校で、地元の子どもた  
ちにホタテの授業を行ってい  
ます。また、夏に箱根町の中  
学生と虻田中学校の生徒たち  
の交流があり、船で養殖の施  
設を見せます。しかし、限ら  
れた人数しか船に乗せること  
できないため、地域の子ども  
たちも全員乗せて、海からも

洞爺湖町を見てほしいと思  
います。

僕も子どものときから虻田  
で育ち、中学校、高校まで、  
全部虻田の学校を出て今ここ  
にいます。自分の子どもも4  
人とも自分が出た同じ学校を  
出しています。地元子どもが  
戻ろうとしたとき、後押しが  
できる親になりたいと思っ  
ています。

**菊地** 僕は漁師のほかに救難  
などさまざまなことをしてい  
ますが、地域のことには全然わ  
かりません。僕も漁師を始め  
たのが、25歳の頃で、7年前  
まで室蘭に住んでいました  
が、会社などの都合により、地  
元に戻ってくることにしま  
した。この町には、ずっと住  
んでいましたけど、特にコン  
ビニが多いとか、信号が多い  
といったイメージしかなく、  
全然地域のことには知らない  
で、これからもっと勉強し、  
地域のために貢献したいなど  
思っています。

**局長** 後継ぎの対策の取り組  
みを漁協としても、しっかりと  
やっていかないとどんどん先

細りになってしまいます。ホ  
タテの養殖は儲かるというイ  
メージがあるため、その辺を  
もう少しアピールしてもいい  
のかなと思います。あと、ホ  
タテの授業は、職業体験と同  
じように子どものときに体験  
しておく、印象に残り大人  
になって思い出すことがある  
と思います。

**齋藤** 当農協は、5農協が合  
併し、各地域、特色のある営  
農スタイルを持ち、その中で  
洞爺湖町は野菜の中核となる  
地域となっています。特に湖  
ばれいしよや湖にんじん、雪  
蔵貯蔵の雪蔵ばれいしよとい  
うブランドで全国販売をして  
います。

平成21年からグローバル  
ギャップという世界基準の  
栽培を用いて、世界に自信を  
持って発信できる農業スタ  
イルを生産者に指導しています。  
2020年の東京オリンピック  
の食材供給に向け、洞爺湖野  
菜を少しでも多く供給できる  
ように取り組んでいます。

当地区における課題として  
は人手不足、労働力不足が深

刻な問題です。人手がいる時  
期は、派遣業者への手配、外国  
人の技術実習生も導入して、  
中国から受け入れを行ってい  
ますが、この問題は、農協だ  
けで何かやろうとしてもな  
かなか難しい面があります。今  
回お集まりいただきいただいた方にも  
ご協力いただき取り組みたい  
と考えています。

**永井(健)** 当農協は農協改  
革として、非常に厳しい状況  
に置かれています。今年6月  
に、残念ながらAコープ豊浦  
店が閉店し、試験的に虻田の  
Aコープ本店行きの買い物バ  
スによる送迎をしています。  
実際は虻田のAコープ本店も  
業績が厳しい状況ですが、農  
協としてAコープが苦しくて  
も、販売の方でそれを補う総  
合事業として捉え、地域にあ  
る程度貢献できているのでは  
ないかと思っています。

農協法改革で首都圏では分  
離した考えもありますが、北  
海道の農協はやはり地域に密  
着しています。総合事業で  
やっていけるような形で応援  
していただければと思います。

7 広報とうやこ 2018年1月



真屋敏春町長

齋藤貴裕さん

永井健司さん

高臣陽太さん

野呂圭一さん

後藤 修さん

納谷豪一さん

永井信久さん

何とか皆さんの力を借りて、皆さんの必要とされるような農協になるよう頑張りますので、よろしく願います。

**局長** JAとうや湖はグローバルギャップを先進的に農協全体で取り組まれていて、非常に素晴らしいと思います。特に2020年の東京オリンピックに向けて、有力な供給の主体になってくれればと期待しています。子どもたちに対する食育の場も必要だと思います。漁協と農協と商工会

など、全体で連携して子どもたちの職業体験ができるといういろいろな人が集まってくるのではないかと感じました。

Aコープ自体も非常に大変な経営ということで、まさに地方の深刻な問題だと思いますので、道、町と合わせて後押しができればと思います。

**町長** 本当に地元を知ることが大切なことだと思います。地域で我々も気付かないところもありますので、皆さんともっと意見を深めたいと思います。

商工会の地域活性化特別委

員会の中で、町にいろいろ提言をいただいております。私どもとしてもそれが地域のためになるということであれば、一緒に取り組んでいきたいと思っています。また、少子化対策として色々な施策を打っていますが、なかなか追いついていないというのが実態です。子どもたちがのびのびとスポーツなどを楽しめるような環境を作っていきたいと思っています。

**高臣** ここ数年、インバウンドで自分たちが思うよりも早くFIT（個人旅行）化が進んでいるのが洞爺湖温泉の実情です。急速なFIT化に地元も受け入れ体制が整っていないのが、今一番の課題です。

インバウンドも多くはバスで入っていましたが、FIT化してきたので思うよりも色々な所に行くようになってきて、看板やパンフレットなど、対応しきれっていない現状です。地域として洞爺湖温泉だけで何かを整備するよりも、この地域に来れば、こういう風に整備されていますよという見せ方ができる方がい

いのではないかと思います。洞爺湖温泉観光協会では、今年から情報発信を丁寧に取り組んでいます。胆振という地域として、ここに来ればある程度安心ですよというようなイメージを与えることができたらいと考えています。

**野呂** 現在当協会では、大きく3つの柱で広報活動をしています。

1つ目はメタサーチと言われる検索エンジンに、より多くの情報を掲載し、地域にあるたくさんの方の視点をPRしています。トリップアドバイザーによる、夏のフォトジェニック外国人部門で、洞爺湖が日本一になったのは、その活動の成果と想っています。2つ目は、SNS対策を重点的に行っています。洞爺湖町は、特に写真映える投稿数が非常に多いため、そういった上でインスタグラムが町としてマッチしていると思っています。3つ目は、インターネットアクセスの解析

で、データ収集と検証から、観光協会のホームページをニ

ズに合わせた形に変え、より多くの情報に触れてもらう作業を行っています。

**局長** FIT化ですが、振興局でも認識しており、西胆振全体でしっかり連携して取り組みたいと思います。

さまざまなツールを使っての情報発信、ここに来られた方がその後どう動くかといった分析も重要で、振興局としても関心を持っていきたい。冬のニセコを訪れる多くの外国人を洞爺に来ていただくというPRを1月末に開催するので、連携できればと思っています。

**後藤** 当観光協会では、地域に根ざして自然を生かしたものを中心にいろいろな紹介を行い、農産物の情報を多く取り入れ、水の駅を中心に販売を行っています。また、湖畔を活用したアウトドアレジャーの案内やキャンプ場、水上バイクの管理など、観光案内も含め、洞爺地区の案内をしています。

近年、洞爺地区は店舗が増え、賑わってきているが、まだ



阿部博之さん

館岡恵一さん

広瀬早喜さん

福島正和さん

菊地章仁さん

清水章弘部長

本間研一局長

まだシャッターを閉めたままの状態の店舗があり、冬期のお客さんが少ないです。店舗も冬期には閉店して二セコに行ってしまうという状況で、冬にも洞爺地区に来ていただく案内をしたいと考えています。農業後継者も少なく、特に下台の地区が厳しい状況です。財田米などブランド化し、人気があるが、今後どれくらい維持していけるのかという心配もあります。

フリークライミングで人が来ることは、非常にありがたいが、管理の仕方やルールづくりが必要な時期かと考えています。

**納谷** 湖を利用したカヌー体験の会社をやっています。洞爺湖温泉は、全国から見ても有数の観光地です。私は、恵まれた自然環境をもっと効果的に宣伝することで、洞爺湖リゾートとして見ることも可能ではないかと考え、自然を理解してもらおうような事業を始めました。お客さんとコミュニケーションをとり、直接人と触れ合うことで、洞爺湖の

ファンを増やして継続的に安定した観光客の誘致を図っていきたくと考えています。

移住者としての視点からすると、物件の全体数が少なく住みたい人はたくさんいますが、違う地域に行ってしまう方もいます。空家や活用されない土地をうまく移住希望者とならなければいけないという組み合わせがあればと思っています。**局長** 特に農産物や自然を生かしたものを伸ばしていただければと思っています。冬は非常にもったいないと思いますので、冬のイベントや宿泊施設があればもっと冬場のお客さんが来てくれるので、今後の課題かと思っています。

**永井(信)** にぎわいネットワークは2000年の噴火後に民間団体として立ち上げ、その後NPO法人格を取得しました。西山の散策路と花と緑の事業を町から委託を受けています。噴火災害に遭った3地域と火山市民ネットワークを設立し、フォーラムを開くなど、復興に向けたまちづくりを15年続けてきました。

雪が少なく春の雪解けが早い気候を生かした合宿などを誘致するワンストップサポート事業を進め、今年度からポロモイスタジアムの指定管理とその活用として週1回、コンサドールの洞爺校を開校しています。アジアのサッカー少年団のスクールと連携をして、アジアの子どもたちの大会を洞爺湖で開催させたいと考えています。

**局長** コンサドールとの協定で、ポロモイスタジアムの活用を考えているのは非常にいいなと思いますし、洞爺湖の新たな側面ができるの単に観光だけではなく、新たな切り口になると思います。

来年6月に室蘭と宮古がフェリーで結ばれ、東日本大震災の災害遺構など、三陸地域とも近くなりますので、その点での連携も面白いと思います。まちづくりのにぎわいをいろいろな分野で連携しながら取り組める部分があるかと思っています。

**町長** 振興局長に来ていただき、地域の各産業団体の若手

リーダーの方と意見交換をしていただきました。町内の各団体がそれぞれ頑張っています。私どものまちは噴火する山、有珠山を抱えており、心がすさんでしまっているのですが、ここに住んでいる人たちが山に負けない気持ちと山と一緒に歩み、山の恩恵もいただくことで、この地域でどのようなことができるのかといういろいろな取り組みをしていただいています。ぜひこの取り組みを今後とも継承し、あるいは発展させていきたいと思っています。

**局長** 次世代につながるという皆さんの意識が非常に高いと思いました。その中で地域の子どもを育てるという視点で皆さんの事業を進めていただきたいと思います。

近隣の町とも連携しなければ野球やサッカーの試合もできない現状もあり、近隣の連携ということが重要になっています。皆さんそれぞれの立場で連携しながら洞爺湖町を盛り上げていただきたいと思います。

近隣の町とも連携しなければ野球やサッカーの試合もできない現状もあり、近隣の連携ということが重要になっています。皆さんそれぞれの立場で連携しながら洞爺湖町を盛り上げていただきたいと思います。